

中間支援活動助成(基本)事業 実績報告

団体名	(認定)しみん基金・こうべ	代表者名	(職名) 理事長 (氏名) 戎 正晴
事業名	今後の在り方と可能性を探る試みとしての顕彰事業		

< 事業実施実績 >

	相談業務 延べ回数/団体数	ネットワークの構築 ・情報提供 件数	人材育成 (講座開設等) 延べ参加人数/回数	書類作成指導 件数	その他 (調査研究等) 件数
R6 実績	2回/2件	8385回(非営利ゲ-グ ル広告含む)	82人/3回	5件	0件
R7 計画	10件・10件	—	90人/3回	—	0件
R7 実績	25件 / 24件	6679回(非営利ゲ-グ ル広告含む)	100人/2回(3回目は3 月予定)	8件	0件

< 効果と成果 >

採択意見で頂いた通り、顕彰事業で、事前復興につながるような事業を多様な分野の団体とともに一緒に展開していける事業や、伴走支援していきべき事業を見つけ出すなどにより他の助成獲得につなげることを目的とし昨年度実施しました。ただ、これまで26年間実施してきた通常の助成事業をやめてしまうことはできないという理事会決定で、今年度は通常助成も行ったため、顕彰事業は予算上縮小せざるを得ませんでした。賞金を昨年度は最優秀50万円で募集しましたが今年度は10万円です。10万円ではインパクトも乏しく応募も減りました。

ただ、災害頻発国である以上、災害支援や復興時の活動は、災害支援団体だけでしたり考えたりするのではなく、すべての分野で活動する団体が常に考えるべきことです。自団体の通常活動で助成申請するより申請内容を考えるのが難しいかとは思いますが、考える機会を持ってもらうことだけでも意味があると思われま。その機会を促すためにも助成ではなく賞金とし、スケジュールや予算までは求めずアイデアだけを募集し、ブラッシュアップワークで多様な方々で一緒に検討する機会を持っています。

提案者からはこの事業の形は新しくかなり良い旨の感想をいただいたのでアンケート集計をご参照ください。

< 今後の展望 >

特定枠助成は顕彰事業に変えることで一歩前進することができた反面、通常助成と両方するには予算が足りず賞金額でインパクトを少なくなったことは残念でした。

申請内容を考えるのは通常助成申請より難しいようなので公簿に工夫する必要があると検討したいと思います。被災地支援団体だけが災害時の活動を考えるのではなく全ての団体に災害時の活動を考える機会を促すため継続したいと考えています。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	5 0 0 , 0 0 0
自己資金等	3 2 4 , 7 5 8
合 計	8 2 4 , 7 5 8

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直 接 経 費	謝金	92,275	92,000
	会場費	19,200	19,200
	人件費	338,400	190,820
	その他(消耗品費等)	356,958	197,980
	小 計	806,833	500,000
間接経費(一般管理費)		17,925	0
合 計		824,758	500,000